

## 留学報告書

～帰りたくなる街ケロウナで学んだこと🍁～

オカナガン大学  
外国語学部生（中期）



私は、カナダのブリティッシュコロンビア州、ケロウナに8月から12月の約4か月間滞在しました。私にとって留学することは幼いころからの目標であり、10年前からの将来の夢は、「英語を使い海外で働きたい」というものでした。なので、今回目標の一つを叶えることができるともうれしく思います。そして、この機会を与えてく

れた両親や先生方にはとても感謝しています。また、この漠然としている夢から、今回の留学を通して将来やりたいことを具体的に考えることができました。私は今まで、様々な海外ボランティアや国際交流に挑戦してきました。ですが、英語圏での長期的な海外滞在は初めてのことでワクワクと不安の両方の気持ちがありました。しかし、ケロウナで過ごした4か月間は毎日が新鮮で新しいこととの出会いと刺激にあふれ秒速で過ぎ去りました。

私が数ある留学先の中からケロウナを選んだ理由は、中学生の頃の恩師が以前ケロウナで留学しており、その時の話を聞いたのがきっかけとなりました。ケロウナはとても自然豊かで過ごしやすく、治安もよく勉強をするにはいい場所と聞いていたので、どうせ行くなら、カナダの自然を存分に感じられる場所、また都会と比べ比較的日本人が少ない場所で英語を学ぶことができる環境が良いと考えケロウナへ行くことを決意しました。実際にケロウナについてみると、想像通り自然豊かで街は、湖、山、森に囲まれており空気がとても澄んでいるように感じました。ケロウナを一言で言うなら緑色です。また街は四季によって景色が一変します。夏は晴天で雲一つない青空で、雨が降ることはありませんでした。ビーチや街にある公園の芝には多くの人が集まり、家族や友達との時間を楽しんでいます。また、私が驚いた点は、芝に寝ころび日光浴や読書をして一人の時間を楽しむ人々の姿です。日本ではあまり見かけることのない光景で驚きましたが、ケロウナは、カナダ人が老後に暮らしたい街として人気が高いそうです。それぞれがゆったり過ごす人々の姿や穏やかな環境は人気の理由として納得しました。秋には、カナダのシンボルである、メープルの葉が色を変え、街中が鮮やかな黄色や赤に変わりました。私は山の上に住んでいたこともあり、秋のシーズンの山からの景色は黄色いじゅうたんのようでお気に入りでした。冬に入ると12月ごろから雪が降るようになりました。街は雪景色に変わり、野外で無料スケートリンクやクリスマスマーケットが解放されました。家や街にはイルミネーションのライトアップが始まりだし、街が華やかになりました。日本の装飾と比べ海外のクリスマスの華やかさに驚きました。私は日本からあまり防寒をもっていかなかったので心配でしたが、ケロウナは寒い日の最低気温でも-10℃と他のカナダの地域に比べ比較的暖かく、想像していたよりも過ごしやすかったです。ですので、日本にいた時とあまり変わらない装備で乗り切ることができました。天候のことでもう一つ言うと、私がいる期間ほとんど雨が降りませんでした。私は、雨具も持って行っていませんでしたが問題はありませんでした。驚いたことは、雨が降っても傘をさしている人は見かけませんでした。また、友達にここの人は傘を使わないのか。と尋ねたところ、傘を持っていないといわれました。



私はケロウナで留学をすることができて本当に良かったと思う点はいくつかあります。まず、上記で紹介した通りとても自然豊かな場所なので、自然を感じるアクティビティーを多く体験することが出来たことです。夏は友達やホストファミリー

とビーチへよく行きました。そこで初めてのパドルボードに挑戦しました。秋には、ハイキングやトレッキングへ家の近所にある山や、ノックスマウンテン、マイラキャニオンというケロウナの地元の人や観光客も多く訪れる山へ出かけました。どちらの山からの眺めは美しく、中でもノックスマウンテンの頂上からは街が一望でき、私はここからの街と湖の眺めがお気に入りになりました。どちらの山へも、学校のイベントで参加したのですが、新しい出会いがたくさんあり、美しい景色を新しい友達と共有することが出来とてもいい時間になりました。日本にいた時の遊び方はお金がかかるものばかりでしたが、自然の中でお金をかけずに楽しむ方法を知りました。また日本にいた時には気が付かなかった自然のすばらしさに気付きました。またケロウナはワインの産地としても有名で数多くワイナリーがありました。初めてワイナリーへ行きワインを試飲することが出来たので、アイスワインという種類を飲んだのですが飲みやすく虜になりました。また、カナダの国技であるアイスホッケーの試合観戦も私にとっては初めてのことでした。地元チーム、ケロウナロケッツを応援する人たちで会場は盛り上がり、カナダ人のホッケーに対する熱が伝わりました。そして、ケロウナでの大きな出来事としては、フィギュアスケートグランプリシリーズのカナダ大会が行われたことです。羽生結弦選手や本田真凜選手をはじめとする日本人選手や世界のトップレベルの選手が集まりました。いつもテレビで見ている演技を間近で見ることができ、興奮しました。そして私は男子の演技を観戦したのですが、羽生選手の演技はとても美しく圧巻されました。羽生選手はこの試合で、優勝し自己最高得点を出し表彰台に立っていました。その瞬間の空気を実際に感じる事ができたことは、私にとって忘れられない思い出になるとともに、日本人として誇らしかったです。

次に感じたケロウナの良さは、親切で温かく、フレンドリーな人柄の人が多くという点です。私はついてすぐにそれに気づきました。初めてバスを利用した時に、乗り方がわからず困っていると、一緒に乗って教えてくれた方や、乗車時の運賃が足りなくて困っていると隣にいた方がお金を貸してくれたことなど、たくさんの方に力を貸していただきました。また、バスから降りるときに乗客は「Thank you」と運転手に一言言ってから降りる姿には驚き、温かい気持ちになりました。こういう習慣が日本にもあればよいのと思いました。同様に、学校やショッピングセンターでもカナダ人の親切さが伝わる瞬間がありました。それは、ドアのホールドです。私は 100%の確率に近いくらいでドアのホールドをしてもらったと思います。しかもそれは、「やってあげてる」という意識ではなくさりげなく行う姿は、後ろにいる人のことを考える、思いやるということが習慣化している表れだと思いました。日本人は細やかな気遣いができるところなどいいところがありますが、見習うべきところもあると思いました。またシャイな日本人からは考えられないほど、フレンドリーで、バス停やバスの中では、世間話が聞こえてきました。実際私自身も、バスの待ち時間で多くの方と話しました。それがきっかけで友達になった人や、顔見知りになり挨拶してくれる人が出来ました。バスの運転手さんも陽気な方が多くいつも挨拶や雑談をしてくれました。これも日本ではあまりないことだなと思いました。

旅行では、バンフとバンクーバー、シアトルへ行きました。バンフの自然は本当に壮大でどこを見ても美しく、いくつか湖をまわったのですが、エメラルドグリーンに透き通った湖は今まで生きてきてみた中で一番美しかったです。バンクーバーもシアトルもケロウナと比べとても都会で驚きました。二つの都市とも都会ですがまたそれぞれが違う雰囲気面白かったです。



今回私は、お父さんとお母さん、二人の男の子のいる 4 人家族の家庭にホームステイしました。着いたばかりで英語に自信がない私を温かく迎えてくれたことを覚えています。両親ともに仕事をしており、子育てとの両立が大変そうでしたが、家はいつも笑顔があふれていました。そして二人を見ていて親の大変さを知り、日本にいる両親に感謝しなくてはいけないと感じました。男の子二人は 1 歳と 3

歳でいつも一緒に遊びました。私には兄しかいないのでお姉ちゃんに成れたような気がしてとてもうれしかったです。また、少し前までできなかった事や知らなかった言葉を言えるようになっていて、2人の成長を近くで見ることが出来て幸せでした。中でも1歳の子は、まだあまり話せなかったのに、私の名前を呼んでくれるようになりました。そのことをマザーに伝えると、「あなたの名前をいつも下の階（地下に部屋がある）に向かって呼んでいるよ。」ということを知り、家族の一員に成れた気がしてとても嬉しかったです。誕生日会やハロウィン、クリスマスなどのイベントと一緒に参加したのですが、規模の大きさに驚きました。誕生日会には家族親戚の集まりと友達を集めて行うものがあり、家族や友人との結びつきが日本よりも濃いように感じました。

しかし、楽しいことばかりではありませんでした。ファミリーとはうまくやっていたのですが、コミュニケーションの行違いから、悩むこともありました。これは、言葉で伝えるのではなく、「きっと～だろう」と考えや思いを憶測で判断したことから始まりました。「察する、空気を読む」という事は日本にいとやりがちですが、言葉を通さずに判断することは時として、トラブルの原因になると思いました。これを受け、コミュニケーションの重要性、相手の考えをしっかりと聞くこと、自分の考えを言葉にすることが改めて大切だと気が付きました。また以前まで自分に自信がないがために、相手の顔色を窺い、相手に合わせ自分の意見を言うことが出来ませんでした。ですが今回の留学でそんな自分を絶対に変えたいという思いでいたので勇気を出し、自分の考えをファミリーに正直に話してみました。はじめは少し怖かったのですが、話し合いをした結果、お互いの気持ちを分かりあうことができ、以前よりも絆を深めることができました。以前だったら問題から目を背け逃げていたところを、状況を改善するために、自ら糸口を考え行動に移すことが出来たことは成長につながったと思います。また、私はよりポジティブに物事を捉えられるようになったと感じます。「ピンチはチャンス」という言葉があるように、つらい状況にいるとき、良い方に視点を変え、一歩踏み出しチャンスに変えて乗り越えていきたいです。

この留学で一番心掛けていたことは「積極的に動く」ことです。その結果多くの人と出会いが生まれました。学校の行事やイベントにはすべて参加しました。また、ボランティアにも多く参加しました。そこで出会う人たちは現地の人もいれば、国籍や年齢もバラバラでした。初めは自分の英語が通じるのか不安もありましたが、とりあえず話してみようと頑張りました。交流をするにつれて、英語を話すこと、それぞれの違いを知ることが楽しく感じました。また、いろいろな生き方や選択肢があると知ることによって将来への視野が広がりました。私は学校外でも、いろいろな人と積極的に交流するようにしました。例えば、市民クラブへの参加や、街の人との会話を楽しみました。特に同じバスで友達ができることは多く、なかでも私は、近所に住んでいるメキシコとマカオ出身の子と仲良くなり、週末にはよく一緒に出掛けました。二人とも私と同じく母語は別の言葉なのに英語を流ちょうに話し高校で難しいことを勉強していました。尊敬すると共に、自分も頑張らなければいけないと刺激を受けました。二人とは今でも仲が良く、帰国後にもう一度ケロウナを訪れたのですが、その時も楽しい時間を過ごすことが出来ました。留学での多くの出会いは一生の宝になりました。また授業でも積極的に質問や発言をするようにしました。他国からの留学生の発言量に驚き、私も頑張ろうと思い、間違えることを恐れることなく発言して、分からないところがあれば先生や友達に聞くことを徹底しました。これも、以前の私であれば難しかったことです。私は、留学前から英語は好きけどあまり得意なほうではありませんでした。ですので、英語ができると自信を持って言えるようになりたいと思っていました。そのため、授業前に積極的に図書館を利用し、自習してから授業に参加するようにしました。また、発音をよくしたいと考えていたので発音強制の個人レッスンを受けるなどし、英語へのモチベーションを上げるよう、自分なりに努力しました。そんな中で、衝撃的な出来事が起こりました。それはいつものように学校に向かうために山道を下っていた時に、一人のおじいさんが私の後ろで倒れました。すぐに気が付き助けを呼びほかの方が駆けつけてくれて救急車がすぐにきました。私はSIMカードも持っていなかったので、

救急にも連絡できませんでした。もしも、人目があまりない場所だったら、もっと重症になっていたらと考えるととても怖かったです。救急の人に状況説明を頼まれた時も思うように話せず、自分の無力さ、英語力のなさを痛感しました。そこから、いざというときに使えないと意味がないと思い、勉強により力が入りました。私の英語はまだですが、以前に比べると自信がついたように感じます。これからも経験を忘れずに語学の勉強をし、ゆくゆくはグローバルに活躍できるようになりたいです。

結論として、ケロウナに行き学んだことは、コミュニケーションや、常に積極的な姿勢でいることの大切さです。コミュニケーションをとるためには、言葉は重要で、世界中で多く使われている英語を学ぶことは、多くの人と繋がり、理解しあうチャンスをつかむためにとっても重要なものだと思います。たくさんのチャンスを掴めるよう努力するとともに、留学で得たすべての経験や出会いを忘れずに自信に変えていきたいです。

